

公開授業科目： 「理系の戦略と社会貢献—地球科学の観点から」（教養発展科目）
授業担当教員： 鎌田 浩毅 京都大学教授（非常勤講師）
開講日時・場所： 平成21年8月6日（木）4、5限、A講義室

授業について

京都大学の鎌田浩毅教授による集中講義「理系の戦略と社会貢献—地球科学の観点から」の一部を公開授業とした。授業では鎌田教授の専門である火山学を軸としながら、教育、研究に関係する様々な問題を取り上げて教員、学生を交えて議論を行った。授業は例年と同様に前の授業時間の終わりに学生から提出された意見や感想を記したメモの紹介から始まり、それぞれのメモに鎌田教授がその場で答えるという対話形式の学生参加型で進められた。学生の意見は必ずしも授業内容に留まらず、授業に関連するものを含み、本学の授業や教育方針に関して鎌田教授の意見を求めるものも多数あったが、鎌田教授はそのような意見や感想もそのまま受け入れて回答した。

4限目に学生から挙げられたコメントの中で重要なものとして、本学の教員の授業が高専の授業や鎌田教授の授業と比べて面白みがないという厳しい意見や高専出身者からの JABEE の是非を問う意見があった。鎌田教授からは大学の授業は高校、高専の授業と異なること、大学では研究能力がある人物が教員となっていて、それは世界共通であって、その是非を問うことは現実的に意味がないことが回答として示された。また JABEE については京都大学で実施することについて教員間で全く議論されておらず、導入する予定は全くなく、教員の議論に上がる前段階で大学の関係者が議論に上がることを食い止めているのではないかとコメントがあった。鎌田教授の意見として、ある程度の教育水準を保つためには JABEE のような基準は一定の役割を果たしているとの好意的な解釈を述べる一方で、ある教育水準以上の高度な教育を行う上では有害な面があると述べられた。学生の質問に回答した後は、鎌田教授自身が出演した NHK のテレビ番組の一部を映写し、番組中での討論内容を授業に取り上げ、学生の興味を引かせ、コメントを述べたり、学生に考えさせたりしながら進めていった。

5限目は、4限の講義の Q&A の発表を通して、フロアとの意見交換が行われた。まず細山田准教授から教養をプラス思考で教育するための秘策について質問があり、鎌田教授は学生の実際の幸せやご自身の社会貢献等、具体的な目標設定を行っていると答えられた。次に福澤教授が質問され、学生の集中力持続のために心がけていることを尋ねた。鎌田教授は90分の講義の中で、15分法（15分で話題を変える）を実践していることを報告された。次に柳教授と鎌田教授のライブセッションとなった。これは学生の Q&A での提案に基づくものであった。鎌田教授がご自身の使命として板書した「社会貢献」について、柳教授は技術者教育、技術者の地位向上というご自身の教育的使命から意見を述べられていた。本学教員とのセッションにより、学生にとって技術者教育と教養との関係を考える格好な時間となっただけでなく、FD に参加した本学教員にとっても教養教育と授業システムの構築という課題を考えさせられた公開授業であった。

報告書作成者：物質・材料系 前川博史、教育開発系 高橋綾子